

おばちゃん通信



新型コロナウイルス感染症対策に関する国の補正予算があり、6月には臨時議会も開かれました。一次補正で9億8千万円、二次補正で29億円が横須賀市に入ってきます。6月臨時議会・定例議会等の報告です。

<プレミアム付き商品券>

市内経済の活性化のため、プレミアム付き商品券が発行されます。小型店のみ利用可能なプレミアム率 30%の 650 円券×12 枚と大型店利用可能なプレミアム率 10%の 550 円券×8 枚の 20 枚つづりのセットです。この案に対して総務常任委員会の中では「500 円などの方が使いやすい」、「地元の店舗の利用を促進する意図をわかりやすい名称にすべき」などの意見が出されました。

その後、担当の文化スポーツ観光部は商工会議所や商業者、金融機関などと協議し、最終的には「小型店のみ利用可能なプレミアム率 33%の 500 円券×16 枚」と「大型店利用可能なプレミアム率 12.5%の 500 円券×8 枚」のセット、名称は『よこすか「地元のお店」応援券』となりました。一冊当たりの利用可能金額が当初の案より高くなり、計 17 万6千冊発行されます。人件費や商品券運營業務委託、販売換金委託料等々あわせて補正金額は6億5865万9千円で、国からの臨時交付金が充てられます。

<中小企業家賃支援補助金>

4 月の臨時議会で中小企業の家賃補助事業が決まり、5 月より開始されました。緊急事態宣言の延長等により、中小企業等への影響は拡大しています。

そこで市は今までの 2 か月に加え、更に 1 か月分の家賃補助を行うとともに、事業者の範囲を医療法人、一般財団法人、一般社団法人、公益財団法人、公益社団法人、社旗福祉法人等へ拡大しました。これは、4 月臨時議会で補正した既存予算を活用して実施されます。受け付け開始から 500 件時点での申請傾向としては、業種としては 59% で飲食店が多いようです。

<デジタル・ガバメント推進事業>

本市は今年 4 月「デジタル・ガバメント推進指針」を策定しました。本市は行政のデジタル化を進め、それを機に行政サービスを見直し、利用者中心の行政サービスの実現と、新たなイノベーションを創発できる地域の実現を目指しています。今回、①市内学校で購入する消耗品などの学校事務費の支払い事務の RPA(コンピューター上の作業を人にかわりロボットのソフトウェアが行うこと)導入、②住民票などの発行手数料収納のキャッシュレス化、③生活福祉課の医療券発行申請窓口のペーパーレス化の予算が計上されました。

市は「投資効果が高いこと」を導入理由としています。①は年間約 2 万件の入力作業、時間にして約千時間の削減、②は現金取り扱い減少による行政事務の効率化、③は事務処理時間年間約 600 時間、申請書の保管の不要などの効果が見込まれます。委員会の中では金額ベースでの費用対効果について質問がありました。

①は約 228 万円の削減見込みであり、2 年で導入の採算がとれることになるそうです。②はキャッシュレス決済の導入は先行投資であり、効果額は出していないが、利用者目線のサービスとのこと。③は約 138 万8千円の削減効果で、約 2 年で導入の採算がとれるそうです。

デジタル・ガバメント推進により事務等が効率化することで、職員には人がやらなければならないことに注力できるようになることに期待します。今後、利用者目線の行政サービス実現や申請をしなければ支援が受けられない所謂「申請主義」からの脱却を目指してほしいと思います。

<GIGA スクール構想の加速>



GIGA スクール構想とは、文部科学省が進める計画です。義務教育を受ける子どもに一人一台の端末と、高速大容量のネットワーク環境を整備し、誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に個別最適化された学びに寄与し、資質・能力をより一層育成する教育ICT環境の実現を目指しています。今回コロナ禍で休校が続いたことも踏まえ、GIGA スクール構想の早期実現に向け、補正予算が組まれました。横須賀市では中学校23校とろう学校の児童生徒へ一人一台の端末を令和2年度中に整備する予定です。中学校の活用状況を見ながら小学校への導入も検討するようです。

オンライン授業については、コロナ禍で一層注目されました。自治体によってその取り組み状況は様々です。横須賀市では休校中は学習動画のリンクなどをホームページで紹介していましたが、市独自で動画を発信したり、オンラインで授業を行う、といった取り組みはなされていません。横須賀市教育委員会は休校中に PTA 協議会の協力を得て小・中学生の保護者に日中児童生徒が使える端末があるか、Wi-Fi 環境があるかのアンケートをとりました。しかしまだ端末や Wi-Fi 環境が整っていない家庭もあります。今後、どうしたらオンライン学習が進めていけるのか、休校中の検証もあわせて、今後検討を進めていくそうです。

<新型コロナウイルス感染症対策検討協議会>

新型コロナウイルス感染症に係る市の対策や市議会の対応について協議を集中的に行うため、新型コロナウイルス感染症対策検討協議会(以下、協議会)を設置しました。

このコロナ禍において、不安や疑問など、市民の皆様から様々な声を伺ってきました。この協議会では、市民の皆様からのご意見などをもとに、各党派や無党派議員から市に対して要望や確認したい事項を募り、それらを協議会の中で協議し、市の執行機関へ要望・確認してきました。

これまでに累計80項目以上に渡り、要望・確認事項をあげています。市議会ホームページにこれまでの市議会からの要望・確認事項とその回答が掲載されています。

協議会の中では委員同士も活発に質問を出し合い、協議を行ってきました。緊急事態宣言が解除された後は、第二波に備えていく観点からも、これまでの市の対策について検証する必要があります。そこで協議会では検証項目について協議し、市の執行部へとあげています。

<犯罪被害者等基本条例検討協議会>

犯罪の被害にあわれた方、またそのご家族などは、犯罪被害によって心身に大きな影響を受けます。後遺症を負った、トラウマとなってしまった、自宅で被害にあった、など、それまで通りの生活を営むことが難しくなることもあります。また、マスコミや周囲の言動により、二次被害を受けることもあります。

犯罪被害者等の基本的人権を守り、受けた被害の早期回復や軽減をはかり、犯罪被害者を地域で支えるという目的を持って基本条例を策定する為の検討協議会が設置されました。

これまで協議会の中で市や県、警察などが行う犯罪被害者支援の取り組みなどを直接伺ってきました。今後は被害者のご遺族の方や被害者のお話を直接伺うこととなります。そうした声を条例づくりに活かしていきます。

<オンライン未来会議の開催>

会派・よこすか未来会議では、市民の皆様から意見を聴く会を設け、マニフェストの検証サイクルを回しています。今回新型コロナウイルスの影響により、対面で集まることが難しいため、オンラインで市民の声を聴く会を設けました。新型コロナウイルスに関してのご意見を色々いただくことができました。今後もオンライン開催を検討し、皆様の意見をきき、政策提言につなげていきます。



おばたさおりプロフィール インターンにご興味ある方はお問い合わせください。またご意見・質問などは下記連絡先へ。

1985年10月3日生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。UCLA政治学部卒業。学習塾、リースペース勤務を経験。2015年横須賀市議会議員選挙にて初当選。会派:よこすか未来会議

移動事務所:080-1161-4031またはinfo@obatasori.com ブログも更新中です!